



今月の農家さん

人も農業も自然が一番!

守山市金森町
西村 清さん (68才)



様々な種類の花や野菜をおうみんちに出荷している西村さん。40年以上前に農業を始めてから手がけた農作物は50種類以上になり、現在もトルコギキョウやアスターといった花や、ブドウ、スイカなどをお一人で育てておられます。

「若い頃は『より売れるものをより多く』と考えていましたが、今は興味がわいたものを、手の届く範囲でやっています。育てる種類は多いですが、好きなのでさほど苦にはなりません」と西村さんは話します。

また、西村さんは農業をほとんど使わず、肥料としてブドウのつるや雑草を粉々にして作った堆肥を使うなど、なるべく自然に近い状態にしているそうです。

最後に西村さんは「人も農業も自然が一番です。自分が好きなものを、身の丈に合った範囲で育てる事も自然。農作物をありのままに育てる事も自然。無理をせず自然のままにする事が農業のコツです」と新たに農業を始める方にアドバイスをします。

営農情報



(写真1) ニカメイガの幼虫

ニカメイガ(ニカメイチュウ)の防除について
近年はニカメイガ(写真1)の発生が多く見られ、平成30年病害虫発生予報でも発生量を「やや多」と掲載しています。ニカメイガは6月下旬と8月中旬の2回に分けて、主にほ場の周縁に発生します。6月下旬に被害をうけた稲は、茎が黄色くなり(褐変)、ひどい場合はそのまま枯死します。8月中旬に被害を受けると稲の穂が白くなり(写真2)、倒伏につながります。ほ場を見回り、茎の褐変や心枯れしている株が1割を超えるようなら、『パダン粒剤4(※劇物)』による防除を実施しましょう。
なお防除適期は7月下旬～8月



(写真2) ニカメイガによる被害穂

上旬ですが、『パダン粒剤4』の使用時期は収穫30日前までとなっていますので、早生品種などに散布する場合は、収穫予定日に注意してください。
※劇物の購入には印鑑が必要です。

収穫前の湛水管理について

稲は成熟期まで水を吸い上げて穂へ養分を送るため、落水が早すぎると粒の肥大が不完全になり、茶米、死米、胴割粒が発生します。

近年は昔に比べて夏の気温が高くなっている影響で、胴割粒が発生しやすくなっていますので、収穫予定の5日前までは、ほ場に足跡がはっきりつくぐらいの水分を確保しておきましょう。

またカドミウムの吸収抑制を図るためにも湛水管理は重要です。